

この
学習場面



この
機能



よりよい
学び

を創り出す！

授業アップデート with ICT

東濃教育事務所



学習場面



は「学習場面」、



は「ICTの機能」、



は「よりよい学び」を、それぞれ表しています。

問題発見・学習の見通しをもつ

自分の考えをもつ(個の学び)

A1 教員による教材の提示

- 大型提示装置等に、「身近な生活の出来事や既習内容」、「本時の学習問題に関する事象や場面」、「学習問題の解決の見通しがもてるように、学習活動や着眼点」等を提示する。
- 児童生徒の興味・関心を高めることができる。
- 課題を焦点化することができる。
- 課題解決のための見通しをもつことができる。



B1 個に応じる学習

- クラウド上の学習履歴(既習内容のスライド等)により、前時の振り返りを確認する。
- 画面共有した情報に、気付いたことや考えたことを書き込む。
- 本時の学習と既習内容を関連付けて捉え、つながりを想起することができる。
- 解決すべき課題の発見や課題解決の見通しをもつことができる。



B1 個に応じる学習

- クラウド上に、手がかりや参考となる資料を置き、必要に応じて活用できるようにする。
- 配信・録画機能で、発音・朗読、運動、演奏等の様子を記録再生して練習できるようにする。
- 各自のペースで学びを調整し、理解しながら学習を進め、知識・技能を習得できる。
- 自己評価に基づく練習や追究を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることができる。



B2 調査活動

- インターネットを用いた情報収集、学習者用端末を用いて、詳細な観察情報等を写真や動画で収集・記録・保存する。
- 細かな観察情報、情報の分類・整理等が容易になり、新たな気付きにつなげることができる。



B3 思考を深める学習

- デジタル教材のシミュレーション機能、デジタルノート等を用いて繰り返し思考する。
- 多数回の試行から性質や共通点を見出したり、発展的に考察したりすることができる。



B4 表現・制作

- 写真、音声、動画等のマルチメディアを用いて、多様な表現を取り入れた資料・作品を制作したり、保存・共有したりする。
- 作品の表現技法の向上や、制作過程を振り返り、自己評価と次の見通しにつなげることができる。



※文部科学省「学びのイノベーション事業実証研究報告書」(参考・引用)では、ICT を効果的に活用した学習場面として、「10の学習場面(A1、B1~5、C1~4)」を紹介しています。





「ICTを**効果的に活用**」って
いうけれど、どのように考
えていけばいいのでしょうか？

「**場面**」「**学び**」を考えた上で、「**機能**」で吟
味しましょう。では、**問題発見・解決の過程**に
合わせて、効果的な活用を考えてみましょう。



授業の組み立ての段階では、ICTの活用は考えないことがポイントです。まずは、「どの学習場面」で、「どんな資
質・能力を育む」のか、これまで通り明らかにします。その上で、ICTの活用を適切に選択します。

自分の考えをもつ(協働的な学び)

学習内容や方法を振り返り学びを深める

C1 発表や話し合い

- 学習課題に対する自分の考えを、学習端末や大型提示装置を用いて交流相手や学級全体に拡大・比較・示しながら、発表・話し合いを行う。
- 表現や考えを記録・共有し、何度も見直しながらか話し合うことにより、新たな表現や考えに気付くことができる。



C2 協働での意見整理

- クラウド上に、グループ内の複数の意見・考えを書き込んだスライド等を映すなど、互いの考えを視覚的に共有する。
- 共通点や相違点を確認したり、意見を類型化したりして、多角的に考察できる。



C3 協働制作

- グループ内で役割分担し、クラウドを活用した共同編集など、同時並行で作業する。
- 表現技法を話し合いながら制作することにより、児童生徒が豊かな表現力を身に付けることができる。



C4 学校の壁を越えた学習

- テレビ会議等により学校外の専門家や他校の児童生徒と交流して、専門的な意見、異なる考えや文化にリアルタイムに触れる。
- 多様なものの見方を身に付けたり、児童生徒の学習内容への関心を高めたりすることができる。



AI 教員による教材の提示

- 発展的な教材、生活に関連付いた教材、児童生徒のまとめ、振り返り等を大型提示装置等で提示する。
- 学習のまとめから今後の学びを想起し、発展的に考察することができる。
- 学習の成果を学級全員で共有し、自己の振り返りに活かすことができる。



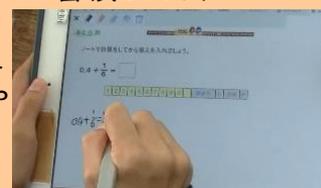
BI 個に応じる学習

- 学習の記録をデジタルポートフォリオとして蓄積したり、配付・回収機能を活用して、本時の振り返り活動をしたりする。
- 学習の記録を振り返り、自己評価できる。教師は付けた力が付いたかどうかを見届けることができる。



BI 個に応じる学習

- デジタル化した問題を領域・分野別や難易度別等でクラウド上のフォルダに蓄積したり、AIドリルに取り組んだりする。
- 個人の習熟の程度や興味・関心に応じた課題や問題を選択して学習に取り組むことができる。



B5 家庭学習

- 児童生徒が情報端末を家庭に持ち帰り、動画やドリルソフト等を用いて学習する。
- 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。
- 児童生徒の学習状況や理解の状況を捉え、指導に生かすことができる。



※これは一例です。教科の特性・学習内容の特性に合わせて考えていきましょう。

東濃管内で
主事が見つけた

ICT を活用する場面を
広げましょう!



Step2.5

ベストミックス

Step2

機能を生かす

Step1

まずは使ってみよう

おすすめ活用法

自分の考えをもつ
(個の学び)

国語

自分の考えをもつ
(協働的な学び)



児童が自分自身の話す様子を動画で撮影し、モニタリングする

スピーチの練習をする際に、「画面録画機能」を活用し、音声データを再生することによって、児童が自分自身の話す様子をモニタリングします。



思考ツールを活用して提案を可視化し、情報を整理しながら比較・検討する

グループで話し合う際に、目的に応じた「思考ツール」を活用することで、提案相互の関係を可視化し、考えを広げる基とします。

自分の考えをもつ

社会

学習内容や方法を深める



課題追究の視点に基づいて、比較・分類・関連付けて考えをつくる

「デジタルノート」を使い、視点に基づき資料を色別で分け、視覚的に指示しながら、スクランブル交流を行います。



視覚的に資料を示すことによって、「どの事実から考えたことなのか」分かりやすく伝え合う

「大型提示装置」で、1つの資料を全員と共有し、根拠を示しながら話すことで、分かりやすく伝え、互いに根拠を確かめ合います。

東濃教育事務所のホームページに、
東濃地区の先生方の実践から集めた
効果的な活用事例を掲載しています。

ICT活用推進用資料

管内小・中学校の実践 (活用場面・校種・学年・教科・活用機能)

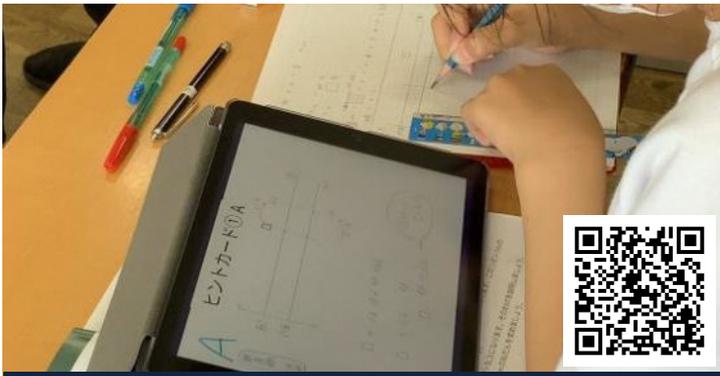
- A1・中1社 プロジェクター [PDFファイル/650KB]
- A1・C2 中1憲 一覧表示 [PDFファイル/343KB]
- B1 小3知 動画撮影 [PDFファイル/636KB]
- B1 小5算 一覧表示 [PDFファイル/648KB]
- B1・C1 小2生 ペイント [PDFファイル/657KB]
- B1・C1 小5国 絵画 [PDFファイル/475KB]
- B1・C1 中1外 動画撮影等 [PDFファイル/477KB]
- B1・C2 中3保体 動画撮影等 [PDFファイル/680KB]



自分の考えをもつ

算数・数学

学習内容や方法を振り返り
学びを深める



自分の考えをつくるための選択肢を増やし、子供の主体的な学びを引き出す

一時間の学びを振り返り、自分の理解の状況に合わせて、学びを進める終末

「**共有機能**」を生かして、「手掛かりとなる資料」を参考にできるようにします。

「**提出機能**」で教師に送り、その後、「クラウド上に用意した問題」や「AIドリル」等に自分のペースで取り組みます。

自分の考えをもつ

家庭科

仲間の考えを知り
学びを深める



課題解決に向けての考えづくりの選択肢を増やし、子供の主体的な学びを引き出す

課題に対する自分の解決の視点を持ち、仲間の考えの良さに気付く

「**一覧表示機能**」を生かして、様々な情報を主体的に収集・整理・分析し、知識を増やします。

考えづくりの節目に立ったとき、学び方の選択肢の1つとして「**共有機能**」を生かし、「仲間の見方・考え方」から自分の考えを広げます。

自分の考えをもつ
(協働的な学び)

外国語

学習内容や方法を振り返り
学びを深める



相手意識をもち、より分かりやすく伝える工夫をする

本時の学びを振り返り、次時への意欲をもつ

「**デジタルノート**」を用いて、複数枚の写真を用意することで、相手の理解や興味に応じた内容を写真を示しながら話す姿につながります。

「**アンケート機能**」を用いて、行きたい国を投票することで、目的をもって英語を読む活動や、本時の活動への達成感につながります。